w/a CORONA SHEET

2020-DEC.

株式会社 竹中工務店

物理的な距離と心理的な距離を組み合わせるコミュニケーション。

/ 場所や世代など様々なギャップを解消する情報へのアクセシビリティ

/ リアルとバーチャルを融合した選択可能な新しい対話

/ ひとびとが安心するための見える化された情報を提供

⑤ I T

w/a CORONA SHEET

2020-DEC.

株式会社 竹中工務店

物理的な距離と心理的な距離を組み合わせるコミュニケーション

「リモートワーク」と「オフィスワーク」、これからは「多様な人×多様な場所」の相乗効果により、ますます新しい価値の創出が求められます。

「リモートワーク」によるメリットとデメリットが広く認識されるようになった今、コミュニケーションの不安を解消する様々なソリューションが生まれています。

私たちは、「働く場」における「新しいコミュニケーション」を皆さまと共に考えます。

リモートワーク

オフィス外においても スムーズに業務を行える環境

- 誰が何処でいつ仕事をしているか分からず、管理職が業務を把握できない
- ネットワーク回線や家具・什器等、自宅での執務環境が整っていない
- 電話やメールだけでは意図を伝えきれず、コミュニケーションに支障が出る
- WEB会議に不慣れで、スムーズに進行できない
- 少し声を掛ける等の気軽なコミュニケーションが取れない
- ローテーション勤務では顔を合わせない人が出てくる
- 徒歩・自転車で通勤できる距離にオフィスがない

オフィスワーク

オフィスにおける感染症対策と 業務のしやすさの両立

- 感染防止のため、会議参加人数を減らさないといけない
- 換気設備がない会議室だと扉を開け放つため声が漏れる
- 距離を取った席にするためレイアウト必要があり、席が足りない
- 自席でWEB会議を行うため声が気になる
- 従業員の感染発覚時や感染が疑われた時、濃厚接触者が誰かわからない
- 出社時に検温する必要があり手間がかかる
- 手指衛生を保つため極力ものに触れない、逐一消毒する等の対策が必要で手間がかかる

場所や世代など様々なギャップを解消する情報へのアクセシビリティ

働く場が分散すると、場所や年代、又情報に対する感度や思考により様々なギャップが生じてくる。
就労日報の報告をコミュニケーションツールとして活用し、実際の勤務状況を可視化することで、Afterコロナ時代の働き方を支えます。

With コロナ → After コロナ

01 コミュニケーションの手段としての勤怠管理

始業/終業等の就労日報入力と日々の勤怠管理を容易にするだけでなく、上司と部下のコミュニケーションのきっかけを与える

02 自分で仕事を振り返る・上司が見守るための可視化

ブラックボックス化しがちなパソコン業務も、ログ分析等で働き方・情報活用を可視化し、問題の早期発見・業務改善を支援する

03 部門を超えた対話のきっかけも作る屋内測位

オフィスにおけるヒトやモノの位置情報をリアルタイムで把握可能とすることで、たまたまの遭遇や「ちょっといい？」を誘発する

04 「社外だから」という不安・不便を解消する屋外測位

メンバーの社外における活動状況もタイムリーに把握することで、円滑な指示・連絡や直行直帰時の就業管理を容易にする

w/a CORONA SHEET

2020-DEC.

株式会社 竹中工務店

リアルとバーチャルを融合した選択可能な新しい対話

働く場が分散している状況でも、従来のオフィスワークと同様に執務者同士がコミュニケーションを取りスムーズに情報共有・合意形成を図れる環境が求められる。
リモートの良さを生かしつつ、仕事の内容によりリアルとバーチャルの度合いを選択しながら、打合せを進化させられると考えています。

Before コロナ → With コロナ → After コロナ

01 リアルな場を共有するテレカンファレンス

映像や音声の送信、資料共有等の機能を持ち、遠隔地とも対面に近い会議を可能にする事で情報共有・合意形成を円滑にする

02 文字情報をベースに場所共有するチャットツール

短いメッセージを互いにタイムリーに送信し合う機能を持ち、メールよりも「会話」に近い気軽なコミュニケーションを可能にする

03 バーチャルな場を共有するVR会議

HMDを装着した参加者が仮想空間上でアバターを用いた「Face to Face」のコミュニケーションや3Dモデル・3Dペンを用いたVR空間ならではのコミュニケーションを行う

ひとびとが安心するための見える化された情報を提供

出社する従業員や来訪者の体温等の健康状態及び換気状況などの室内環境といったヒト・モノの状態をセンシングし、発熱者や気密状態などの感染リスクを見える化（可視化）することで、より安心して働らく場を提供していきます。

With コロナ → After コロナ

01 従業員・来訪者の状況を把握するバイタルセンシング

人の体温等のバイタルデータをサーモカメラやウェアラブルセンサによって計測し、バイタルデータを蓄積・活用することで従業員・来訪者の体調を即座に把握する

02 ヒト・モノの環境をセンシング

CO2濃度や温度・湿度等をセンシングすることで換気状態といった室内環境を可視化し、従業員の自発的な換気や気分転換を促し、従業員の行動を変容する

03 位置情報に基づいたリスクの可視化

従業員の所在情報を利用し、従業員同士のソーシャルディスタンスの確保を促す。また、感染発覚時には過去に遡って所在情報を追跡することで、濃厚接触者の特定を容易にする

⑤ IT